

小特集

祝・「明治日本の産業革命遺産」 世界文化遺産登録決定！

日本の近代化の先駆け 集成館事業

「鹿児島から世界文化遺産を」この世界文化遺産登録を目指す取り組みは、平成17年に鹿児島県が実施したシンポジウム(かごしま宣言を発表)を契機に始まりました。

それから約10年に及び取り組みを経て、去る7月5日、「明治日本の産業革命遺産」の世界文化遺産登録が決定しました！

今回は、当資産の世界文化遺産としての価値を再確認するとともに、これらの資産を守り、次の世代に引き継いでいくための取り組みについて紹介します。



祝・世界文化遺産登録！
喜びを分かち合った
ドイツと鹿児島

ドイツのボンにおいて、第39回ユネスコ世界遺産委員会が開催され、7月5日(日)に本県が世界文化遺産登録を目指す「明治日本の産業革命遺産」の審議が行われました。

7月5日(日)の現地時間午後3時過ぎ(日本時間 同日午後10時過ぎ)に、審議が開始され、政府代表団の一員として参加した世界遺産登録推進協議会(本県を含む九州・山口を中心とした8県11市で構成の会長である伊藤知事をはじめ関係者が見守る中、現地時間午後3時37分(日本時間 午後10時37分)に世界文化遺産登録が決定しました。

関係者らは互いに握手を交わすなど、喜びを分かち合いました。

鹿児島でも、登録決定の瞬間を見届けるため、本県と鹿児島市が共催で、世界遺産委員会の審議の同時中継を視聴する「ユネスコ世界遺産委員会パブリックビューイング」を、鹿児島市磯地区にある「名勝仙巖園」で開催しました。

集まった県民や関係者約1200人は、世界文化遺産誕生の瞬間、歓喜に湧き、拍手が鳴り響きました。その後、構成資産のひとつである「旧集成館機械工場(現在の尚古集成館本館)」前に移動し、来場者全員でくす玉を割って登録決定を祝いました。

「若手会」では「明治日本の産業革命遺産」のPR活動等を行っています！

私達は、鹿児島市を拠点に大学生を中心とした約30名のメンバーで活動しています。活動内容は、県内構成資産周辺の清掃活動に加え、自分たちと同年代の若い世代を中心に多くの方に「明治日本の産業革命遺産」についてもっと知ってもらえるよう、自分たちでアイデアを出し合いながらイベントなどを企画・運営しています。

最近では、7月15日～16日の2日間にかけて、照国神社の六月灯で、舞台発表を行ったことに加え、自分たちで手作りした展示パネルなどを使って来場者の方々に県内構成資産などについて説明をしたり、集成館事業などの説明を交えながら島津斉彬公の銅像のレリーフについて解説するなどのPR活動を行いました。



若手会代表
なかい ももこ
中井 萌々子さん



島津斉彬公のレリーフを解説するスタッフ



手作りの展示パネルが注目されています！



子どもたちもクイズに参加し、大盛り上がり♪

展示ブースには外国の方も含む多くの来場者が足をとめてくださり、幅広い年代へ自分たちで説明を行うことで、説明する際に工夫しなければいけない点などの課題もわかり、私達若手会メンバーにとっても大変勉強になりました。今後、「明治日本の産業革命遺産」のPR活動を通じて、もっと色々な方に鹿児島の歴史や魅力を知っていただけるよう、メンバーみんなで力を合わせながら活動していきたいと思えます。

次世代へ引き継いでいくために

県では、世界文化遺産である「明治日本の産業革命遺産」を次世代へ引き継いでいくために、次のような取り組みを行っています。

取り組み1

県内の全小学5・6年生に、集成館事業を中心に日本の近代化に鹿児島県が果たした役割についてわかりやすく説明した副読本「かごしまタイムトラベル」を配布し、授業や課外学習で活用

取り組み2

小・中学生を対象に、水車づくりなどの体験を通じて、当時の技術や集成館事業について楽しく学べるワークショップを開催

取り組み3

テレビ番組とタイアップし、集成館事業や「明治日本の産業革命遺産」を紹介する企画番組を制作

取り組み4

県内各地で「明治日本の産業革命遺産」をテーマにした講演会などを開催

取り組み5

ボランティアガイドや県内の観光事業者などを対象に、集成館事業や県内の構成資産、「明治日本の産業革命遺産」についての研修会や実地研修などを開催



【講演会】



【水車づくり体験】



【校外学習】



【かごしまタイムトラベル】

【問い合わせ先】 県庁世界文化遺産課 ☎099(286)2364